

様式4

令和7年度第5回
富士見市社会教育委員会議
議事録

日 時	令和7年11月5日（水） 開会 午後7時00分 閉会 午後9時20分								
場 所	富士見市立中央図書館 2階 視聴覚ホール								
出席者	委 員	渡邊（知）委員	関野委員	戸田委員	深瀬委員				
		○	○	○	○				
		八木橋委員	河村委員	渡邊（誠）委員	檜山委員				
		欠	○	○	○				
	事務局	生涯学習課 副課長、主任							
公開・ 非公開	公開（傍聴者0人）								
議 題	1 あいさつ 2 協議事項 ・第4次富士見市生涯学習推進基本計画案について 3 その他								

議事内容

1 あいさつ

2 協議事項

【議長】協議事項に入る前に、今期の社会教育委員会議の今後について、事務局から説明をお願いする。

事務局から社会教育委員会議の今後とスケジュールについて説明

【議長】生涯学習推進基本計画の策定のタイミングなので、2回予定を組んでいるが、3月は報告がメインになるのか。

【事務局】3月は計画の報告になるので、時間はかかる見込みである。時間が早く終わった際には、テーマについての議論を行うことも可能。

【議長】補助金については、年度に1回ずつ予定されており、会議内容の詳細については事務局で調整中である。それを踏まえると、今期のテーマについて、検討する機会は8回である。限られた審議時間になるので、次の会議の際に、今後の見通しを考えていきたい。何か質問はあるか。無ければ議題に入る。

・第4次富士見市生涯学習推進基本計画案について

【議長】資料は事前に送付されているため、目を通している方が多いと思うがまずは事務局より説明をお願いする。

事務局より第4次富士見市生涯学習推進基本計画について説明

【議長】事務局からも説明があったが、時間的に全体を扱うことが難しいため第4章の第4次計画の内容について議論を行う。事前に計画の全体案を確認したが、第1～3章がなくても今回の議論には影響はない。主に、第4次基本計画の市の総合計画との位置づけや、第3次計画の振り返りなどが記載されている。第3次計画の振り返りについては、本日配布資料のP27に課題として列挙されており、ここに第3次計画で取り組んできた中の課題がキーワードとして書かれている。それを踏まえて第4次計画が策定されているので、ここで挙げられている課題に着目しながら、第4次計画を見ていきたい。第4次計画の項目を見るとわかるが、重点施策が重要なテーマであるため、それを中心に、議論していきたい。まずはP33の学習情報の発信・相談体制の充実・推進体制の充実についての意見を伺う。この章は前期の提言内容である生涯学習ガイドの充実、リニューアルや相談機能の強化についても、入れていただいていると感じる。また、KSFについても注目してもらいたい。

【委 員】K S Fで出されている27.2%の基準自体が低いのか高いのかわからないが、目標としての本来目指したい数字はあるのか。

【事務局】客観的に見て27.2%はどの位置にいるのかという質問だと理解した。目標達成したとして、40%の方が情報を手に入りやすいと回答したとしても、残りの60%はそうではないということになる。数字の感じ方は各自で変わるものもあり、明確な回答は難しいが、現状としては数字を上げていきたいという思いがあるため、まずは5年間で40%をしている。40%で満足するものではなく、その先ではもっと上げていきたいと考えており、まずは現実的な範囲で目標を設定している。

【議 長】この計画の策定にあたって、2つのアンケートを分析しているので参考資料があった方が良い。

【事務局】参考に、第4次計画案の第1章～4章の全文を配布するので、そこのアンケート該当箇所を確認いただきたい。

【議 長】アンケートモニター調査は対象が決まっているのか。

【事務局】定期的に市のアンケート調査にご協力していただける市民の方を、市のホームページで募り、登録いただいた方が対象となっている。年に数回アンケートを実施しており、その中に生涯学習に関する項目も数項目設定されており、その結果である。

【委 員】11万人中772人が登録しており、その内の37.0%が回答しているという認識で良いか。

【事務局】789人が登録者で、メールが到達した件数が233人である。

【議 長】このK S Fで掲げられている市民アンケートモニター調査はこのアンケートのことによいか。

【事務局】おっしゃる通りである。

【議 長】このアンケートはインターネットで実施しているため、それを使えない高齢の方などは回答していないんだろう。目指すは100%ではあるだろうが、そのステップとしてまずは40%を目標にしているということだろう。あくまでもステップならば、長期的に見た目標がないと目標として弱いんだろう。学習情報の発信だけでなく、相談体制の充実についての意見も伺う。

【委 員】学習情報の発信について、デジタル社会ということでS N Sの活用などが掲げられているが、働いている世代は市のこと自ら調べないので、商工会と連携してお店にチラシなどを掲示することや、また引っ越しする人は必ず不動産関係の会社とは関わるので、そこに生涯学習ガイドなどを設置してもらうなど、アナログな取組も必要ではないか。

【議 長】さっきのアンケートにもつながるが、紙を希望する人は必ずいるため、ネット上だけでは難しいだろう。新たな参加者を増やすためには、どこが入口になるかという話にもつながるが、⑥教育機関等と連携した学習情報の発信のところを、広く捉え、教育機関だけでなく他に連携できる場所を意識して取り組んでいけたらよいのではないか。

【委 員】自分のことになるが、買い物に行ったときが掲示物などを見る機会であり、そこでインプットする情報もあるので、商工会との連携も行った方が良いのではないかと思った。

- 【議長】どんなところと連携すると効果的かを検討して取り組むべきである。
- 【委員】相談体制の充実について、②ボランティア活動についての相談・情報提供とあるが、今までも取り組んでいると思うが、ここに小学校や中学校との連携を加えてもいいのではないか。特に中学生については、高校受験を見据えてボランティアをやりたいと思っている子が多くいると思う。ぜひ学校にも情報発信していただけると、やりたい子につながるのではないか。ごみ拾い活動など小学生でもできることは小学校に情報提供いただければ、学校からも情報を提供することができる。
- 【議長】ボランティア希望の小・中学生への情報提供は、情報発信と相談体制のどちらにも該当してくるだろう。
- 【事務局】実際に公民館の文化祭等で中学生のボランティアに参加してもらう取組は現在も行われているが、あくまでもその施設と学校だけのやり取りになっているため、計画の推進に当たっては、施設だけでなく全庁的に広めていきたいと思っている。
- 【議長】針ヶ谷小学校の地区体育祭について、昨年度町会長が校長へ依頼して小学校へ周知したところ、小学生の参加者が多く集まり、非常に盛り上がったという話を聞いた。子どもがやる気になると地域が盛り上がるきっかけにもつながる。
- 【委員】今年の体育祭も参加者が多く、地区のお祭りについては、6年生がお店の運営側として参加している。地域から相談があれば、学校として検討することができる。
- 【委員】東みずほ台祭りにも、今年本郷中学校の生徒が10名程度お手伝いで参加して、駐車場や駐輪場の整備やごみの整頓などに協力してもらった。とても熱心に取り組んでくれて、こちらの活動にも興味を持ってもらいたいとも意義のある活動であると実感した。市内でもそのようなケースはあるのではないか。
- 【委員】フジミライテラスで行ったふじみのM A C H I f e s の際にも、ボランティア証の出し方が話題になり、市の担当者に相談したところ、一度府内で検討すると言われ、すぐに回答が出てこなかった。市としてボランティア証の発行についてのフレームワークを整えることを、この計画に盛り込むのも良いのではないか。動機は受験を意識したものかもしれないが、学生が地域に関わるきっかけにつながるだろう。
- 【委員】事業内容に、ボランティアセンター機能の充実とあるが、社会福祉協議会ではなくボランティアセンターというもの自体が存在しているのか。
- 【事務局】こちらがイメージしているのは社会福祉協議会である。生涯学習の中にはボランティアも含まれているにも関わらず、今まで社会福祉協議会との連携が出来ていない状態であるため今回記載した。市民人材バンク等で活動している方の中には、社会福祉協議会のボランティアも行っている方も多くおり、連携することにより、課題の解決や新たな取組につながる可能性もあると考える。
- 【委員】ボランティアセンターは市民福祉活動センター「ぱれっと」の中にあるということになっている。
- 【委員】相談体制の充実に関連した内容になるが、市民人材バンク制度の登録者

の情報や登録内容などが少なく、もう少し登録者情報が多いと相談しやすいのではないか。

【議長】どのような登録者がいるか把握しやすくするため、もう少し情報が多い方が良いだろう。

【事務局】市民人材バンク制度については、重点施策ではないがP39、P40、P43で市民人材バンク制度の充実を謳っている。市民人材バンク推進員の会でも、登録者一覧の見直しの必要性が話題になっており、昨年度も内部研修ということで、登録者一覧について研究を行っている。活動の様子については、活動写真展という形式で市内公共施設を巡回して実施しているが、そこに来た人しか見られないという課題もある。SNSの活用ということで、推進員の会でFacebookの活用もしているが、使用している人が限られているため、推進員の会と現在新たな方法についても検討している。そこが広がっていくと相談にもつながってくるのではないかと考えている。

【議長】学習情報の発信・相談体制の充実に加えて、推進体制の充実についての意見も伺う。推進体制の充実については何か新しい具体的な取組はあるのか。

【事務局】③市内の学校と地域の連携の充実については、現在も取り組んでいるがより充実させるために拡充としている。コミュニティ・スクールの推進については、令和8年度から開始できるように現在進行している状況である。

【議長】以前の会議の際に、なかなか難しいと話題になったが、やはり移行する方針なのか。

【事務局】予算の関係もあり、明言は出来ないが準備を進めている段階である。来年度に向けて担当課が予算要求をしており、調整中である。議会にも関わってくるため断言は難しいが、進める計画があることは報告している。コミュニティ・スクールは、設置して終了するものでもないため、今後の運用と推進を意識して計画に記載している。

【委員】学校応援団などの取組はすでに行われているが、部活動の地域転換に向けた検討については、どのくらい進んでいるのか。

【事務局】部活動の地域転換については、地域の様々なノウハウのある人が求められており、依頼先がないなどの課題に直面している段階である。これから話を進めていきたい考えはあるが、地域の人にお願いできる段階にあるかというと厳しい状況であることは伺っている。

【委員】そのために組織を立ち上げるという話までは進んでいるか。

【事務局】そこまでは進んでいない。学校教育課長からは、中体連の大会に出られるようにならないと、大会を目標に頑張っている子どもたちも多くいるため、厳しいのではないかと伺っている。また現在は学校の部活動ということで学校教育課が担当しているが、地域に転換するとなると今度は文化・スポーツ振興課など市長部局との連携も重要となってくると考えられるため、今回の計画に入れている。現状としての状況は厳しいため、まずは検討を進めていきたいという考え方でこの表現としている。

【議長】部活動の顧問は、経験がない人もいるため、専門性は問わなくてもいい

のではないか。真摯に子どもたちに向き合える人であれば、一緒に学んでいけるのではないか。誰かが見守っていて部活が成立することが重要である。

【事務局】実際に経験がなくても顧問をしている中学校の先生もいるが、子どもたちのもっと上手になりたいという思いに向き合うため、自分の時間を割いて努力をしている方も多くいる。自分で教えるだけでなく、経験のある保護者などにコーチとして協力してもらう取組などもあるので、そのあたりの連携も重要と考える。子どものもっと上手くなりたい、もっとやりたいという気持ちを伸ばすためには、そのような地域の方に活動に参加してもらうことが充実した活動につながる可能性もある。

【議長】本人が出来なくても、教えられる人を連れてくる方法もある。その分野に長けた人と限定してしまうと話が進まなくなってしまうため、柔軟に考えた方が良いだろう。

【委員】部活動の地域転換については、難しい問題であるがこれも生涯学習の一部と考えるといいのではないか。中学生だけで集まってやることや大会に向けて取り組むことも良いこともあるが、地域の人と一緒にになって音楽やスポーツの楽しさに触れる機会としても考えられるだろう。そのように考えれば住み分けもできる。子どもがやりたいと思ったときに、取り組める場所があるということをどう考えていくか。そこは教員の働き方改革とは別の生涯学習として市がどう考えるかという視点でやっていけたらいいのではないかと個人的には思う。

【委員】その考え方賛成である。例えば、市民人材バンクからのコーチの派遣や公民館に登録している団体などを組織化して、部活動の地域移行に協力してもらう調整などもしていけるのではないか。

【議長】他に何か意見はないか。

【委員】相談体制の充実について、生涯学習施設だと団体への所属を勧められるのではないかと思ってしまうためハードルが高いと感じる。個々での相談には、生涯学習施設よりも事務局である生涯学習課が適しているのではないか。自分自身もそうであったので、ぜひ相談体制の充実には生涯学習課も加わってほしい。

【事務局】生涯学習課にも社会教育主事がいて実際に相談対応も行っており、入っている前提で記載している。

【議長】誘導されることはないと思うが、相談体制の充実にあたっては、相談する方の要望をきちんと聞き取った上で、それに応じたものを提供する対話スキル向上の研修などはあってもいいのではないか。

【事務局】職員の相談スキルの差は、経験年数や異動の影響もあり、生じてしまう場合もあるが、それを言い訳にしないためにも、職員のスキルの底上げを図りたい。相談に来た方に残念な思いをさせないような体制作りを行っていきたい。

【議長】解決へ導くよりは、現在ある情報につなげることが重要であろう。

【事務局】現在ある情報についても、府内連携が不足しているケースもあるため、推進体制の充実として新規に生涯学習担当者連絡調整会議を設けてい る。職員でも部署が離れているとお互いの業務がわからず、話がつなが

らないケースもあり、その解決につなげるためにも、今回力を入れて取り組んでいきたいと考えている。

【委 員】 レファレンスサービスを見て思いついたが、現在 A I が解決してくれるという風潮がある。A I は課題もあるが電子レファレンスのようなものもある。レファレンスサービスの存在感を上げるために、対応するノウハウや人的接触によるサービスが更に求められてくるだろう。対面での相談体制というのは今後も重要であると感じる。

【議 長】 前期でも話題になったが、そのような相談をできること自体を知らない人が多いので、もっとアピールしてほしい。

【事務局】 今回相談体制について具体的に記載した意図としては、現在も相談があれば対応しているが、計画に具体的に記載することにより、生涯学習施設の職員の質の向上につなげたいということもある。

【議 長】 市民向けに「気軽に相談してください」のようなポップなどを作ってアピールして、心理的なハードルも下げられるとよいだろう。

【委 員】 質問になるが、第3次計画は5章立てだったが、今回は4章立てに変更している。何か考え方があるのか。

【事務局】 第3次計画の第5章については、計画の推進体制についてのみ記載されている章であった。第4次計画案作成当初は、第3次計画と同様に第5章に計画の推進体制を記載していたが、1つの内容のために第5章を立てなくても、第3章に含めることができだろうという府内委員会での意見を踏まえて変更した。第5章の内容がなくなったわけではなく、組み立てを変更して、第3章に含めたものである。

【議 長】 内容が減ったわけではなく組み立てを変更しただけということか。

【事務局】 おっしゃる通りである。むしろ計画の内容については、第3次計画より増やしている。

【議 長】 市に社会教育の計画はあるのか。

【事務局】 社会教育独自の計画はない。

【委 員】 社会教育の計画がないのであれば、この生涯学習推進基本計画は社会教育を推進する計画でもあるはずだ。

【事務局】 おっしゃる通り。この計画は社会教育も含めた計画である。

【委 員】 計画をパッと見たが社会教育の文言が見当たらない。第3次計画では、検討委員に社会教育委員が一人いるだけで、そこ以外で社会教育という言葉は一切出てきていない。第4次計画でも、さらっと見ただけだが、すぐには見つけられず、非常に残念である。かつて社会教育の富士見と言っていたのだから、ぜひ計画の中の基本理念に社会教育という言葉を加えるべきである。また、K S F のどれかに社会教育事業の参加者の満足度を盛り込むことを検討してほしい。P 2に計画の枠組が記載されているが、教育振興基本計画との関係もここに盛り込むべきではないか。教育振興基本計画には、市の最上位計画の下に教育振興基本計画があり、その下に生涯学習推進基本計画があると位置づけられている。それを第4次計画のP 2にも体系図として記載すべきである。

【議 長】 P 2の図は、3段落目の文章と合っておらず、図の意図が伝わらないので、載せなくてもいいのではないかと思った。

【事務局】このP2では、当初は図もなく文言だけで、生涯学習推進基本計画の歴史を記載していたが、庁内委員会で歴史も図にした方がよいと意見があつたため、このような形で図を載せている。計画の体系図については、P25に第4次計画の概要として載せている。社会教育という言葉が全く出てきていないという意見については、第3次計画の振り返りを行つたところ、社会教育に触れていないことが確認できたため、第4次計画には、計画の具体的な取組に社会教育主事や社会教育委員会議など社会教育という言葉を意識的に記載した。社会教育という言葉が少ないので事実であるが、第3次計画よりは意図的に増やしている。また生涯学習に関連する記載が多くなっていることは教育委員会だけでなく全庁的な計画であることを意識させたいという意図がある。富士見市には教育委員会が所管する社会教育施設の他に、キラリふじみ、市民総合体育館、交流センター、コミュニティセンター等の生涯学習施設があり、教育委員会内の連携だけでは生涯学習の推進に限界がある。他部局と連携し取り組むことによって、生涯学習のベースアップを図ることを目標としていることもあり、意図的に社会教育を前面に出しすぎない計画正在している。

【委員】第3次計画は市長部局で策定されたと聞いており、今回は社会教育を担っている生涯学習課で策定するのはとても良いことである。P25の体系図では教育振興基本計画が記載されておらず、しっかり位置づける必要がある。

【事務局】関連する計画として教育振興基本計画は記載している。

【委員】そうなると順番が違うのではないか。教育振興基本計画に記載されているように、市の基本構想の下に教育振興基本計画があり、更にその下に生涯学習推進基本計画があるべきである。

【事務局】一度持ち帰り、確認する。

【委員】教育振興基本計画の中に基本方針が2つ掲げられており、基本方針2が「学びあう地域社会をめざす教育の推進」として社会教育のことが書かれている。教育振興基本計画との整合性を図り、その趣旨を生涯学習推進基本計画の中に入れてほしい。また、計画の冒頭に「社会教育施設」という言葉を増やしてほしい。例えばP30の多様な学習活動への支援の説明文に「学校や企業、地域の団体など」とあるがそれを「学校や社会教育施設など」と修正できないか。社会教育施設を文言として登場するようにしてほしい。

【事務局】富士見市には教育委員会所管の社会教育施設以外の生涯学習施設も多くあり、社会教育施設と記載することにより、公民館だけであると認識されてしまう恐れもあるため、総称として生涯学習施設として記載している。

【委員】受講する利用者目線だと生涯学習施設に違いないかもしれないが、市として学校教育と社会教育を推進する体制にも関わってくるので、全く書かないのはいかがなものか。

【事務局】教育委員会が所管している公民館だけでなく、市長部局が所管している交流センター等も含めた市全体として生涯学習を推進していくという考

えで計画を組み立てている。

【委 員】市長部局への配慮であることが理解できるが、交流センターには社会教育主事もおらず、社会教育事業を実施している訳ではない貸館施設であるので、そこは分けて考えてもいいのではないか。

【事務局】交流センターについては、鶴瀬西公民館が鶴瀬西交流センターに変わった経緯もあり、社会教育施設ではないが公民館と同様に高齢者学級などの事業を実施している。ふじみ野交流センターでも高齢者学級ではないが、「ふじみ野じゅく」などの学習の機会を提供しており、交流センターは貸館だけを行っている施設ではない。

【委 員】全部ではないが、圧倒的に内容は違うだろう。針ヶ谷コミュニティセンターの指定管理委員会に関わっているが、事業内容としては寂しいものである。

【事務局】針ヶ谷コミュニティセンターは指定管理をしていることも影響しているが、交流センターについては公民館と同じような役割を果たしているところもある。地域の拠点となり、大人だけでなく小・中学生とも連携した取組を行っている。コミュニティセンターとピアザふじみについては、ご指摘の通り貸館がメインの施設であり、そこだけは社会教育施設に類似している施設とは言えない。

【委 員】前回も社会教育施設として書かず、今回も生涯学習施設として記載したいとのことだが、社会教育施設という言葉を出したときに市民が「あれ、なんだろう」と思うこともあると思う。この会議の意義も考えると、社会教育という言葉を盛り込んだ方が良いのではないか。第3次計画も教育委員会の発行なのに、社会教育施設という言葉が入っていなかったという認識で良いか。

【事務局】第3次計画については、策定段階では市長部局の地域文化振興課が中心となり、生涯学習課は事務局として関わっていた。発行のタイミングで機構改革により、地域文化振興課が無くなったりことにより、事務局が生涯学習課のみとなつたため、教育委員会の発行となつた経緯がある。

【委 員】この計画が社会教育計画の役割も兼ねたものではないといけないという話であったと認識しているが。

【事務局】社会教育独自の計画を市としては持っていないため、兼ねる必要もあるという話である。

【委 員】全体を見ての判断とのことだが、検討していただきたい。社会教育というものをもう少し意識した計画にしてほしい。

【事務局】第3次計画と比較すると社会教育というワードを意識的に増やしているが、市の課題として公民館と交流センターの温度差があるのであれば、それを埋める役割の計画にする必要があるため、生涯学習施設と表記している意図もある。ただ、今回社会教育委員会議から意見を頂戴したので持ち帰り検討させていただく。

【委 員】第3次計画の時の課題として、参加者の固定化はあるが、K S Fの中に参加者数を増やすような数値がなく課題に対応できていないのではないか。参加者数のうち新規の参加者の割合を増やすと言った目標を入れた方がいいのでは。また、参加者アンケートの報告の中に「新規の参加者

が参加しやすいように配慮されていたか」という項目を入れることを検討してほしい。

【事務局】計画の進捗管理の際にその視点を踏まえて、行えるように検討を行う。

計画の目標として結果だけ見るのではなく、毎年作成する進捗管理シートに「新規の参加者の割合」の項目を設けることにより、経年の変化がわかり、客観的な分析もしやすくなると考えるため、そちらに反映していきたい。

【議長】続いてP40の基本目標②(3)新たな人材の発掘についての意見を伺う。ここに書いてある④市内小・中・高校生のイベント参加機会の充実については、先ほど話に出た中学生ボランティアのことか。

【事務局】現在は当日のボランティアがメインになっているが、場合によっては実行委員会などの企画の段階から学生に入ってもらいたいと考えて記載している。小学生の間は遊び場を求めて公民館や交流センターに遊びに来る子どもが多くいるが、中学生になると部活動や塾などで忙しくなり、生涯学習施設から離れてしまう時期になる。そういう世代に来てもらうきっかけに繋げたいという意図もある。

【議長】先ほど話題に出たボランティアパスポートのようなものもあるといいのではないか。

【委員】ボランティアパスポートはどこの取組なのか。地域独自のものかもしれないが、市全体の取組に広がると面白いかもしれない。

【委員】相談体制の充実の部分の関連部署に学校教育課が入っていないことが気になった。ただ学校のことはなんでも学校教育課に繋げてしまうと広がりが少なくなるため、教育委員会としては生涯学習課が所管するという考え方であれば良いと思うが、情報発信の際には学校との連携が必要になるので、P34の内容も併せて、学校教育課と連携を図れた方が良い。

【議長】学校について関係するところには、全て学校教育課が入っていてもよいのではないか。

【委員】むやみには載せられないかもしれないが、調整した方が良いだろう。

【委員】①市民人材バンク制度の充実について、富士見市としてこのような人材が欲しいというものはないのか。市としてのビジョンが見えない。それがあればまちおこしイベントなどに繋がっていけるのではないか。

【事務局】市民人材バンクとしてどのような人材に登録してほしいかという話であれば、依頼が多いのは音楽サークルやイベント協力などの需要が非常に高く、イベントが集中する時期はお断りすることも発生してしまうため、市民人材バンクとしては増やしていきたいという思いはある。

【委員】施策より具体的な話になると思うが、そのようなことをアピールしていくば、手を上げてくれる人も出てくるのではないか。

【事務局】イベント協力などについても、リーフレット等でPRしているが、市民人材バンクのこと自体を知ってもらわないと、意識してもらえないという課題もあるため、力を入れてPRしていきたい。また、需要が多い内容に限らず、自分の力をぜひ地域のために使いたいという思いがある方であれば、登録いただきたいという考えもあり、活用実績がない場合もが推進員の会がサポートしてモデル事業を実施して、具体的な活動例な

どを作っている。

【委 員】待っているだけでは増えないだろう。市から具体的にこういう登録者が欲しいというものがあるとわかりやすいのではないかという一つの意見である。

【議 長】「カタリバ」と記載されているが、これはN P Oのカタリバに依頼する予定で書いているのか。それとも一般名詞として書かれているのか。

【事務局】N P Oのカタリバが実施しているものと島根県益田市の取組としてのカタリバを参考に、富士見市でも取組の実施について検討をしたいという意図で、実施研究・検討と書いている。仕組みをどのように作るかという段階からスタートするため、具体的な検討についてはこれからである。市としては、若い世代と地域の大人とのつながりを作りたいと考えている。

【議 長】個人的にはとても良い取組だと思うが、「カタリバ」と記載してしまうと、知っている人はN P Oのカタリバを想像してしまう可能性もあるため、固有名詞に近いものを計画に載せても良いものか気になった。造語だと思う人もいるかもしれない。

【事務局】注釈は付けていますが、内容や表記については一度検討させていただく。

【参加者】①市民人材バンク制度の充実について、登録者の「わ」についている利用状況の一覧を基に分析をしてみたが、登録者の中でも活用されている人の偏りが大きい。登録者交流会の記事を読んだ時も、一度も利用がない人がいることが書いてあった。登録者を拡大することによって、偏りがより多くなってしまうのではないかという危惧がある。拡大するのは良いが、現状の偏りの課題も広がってしまうため、それを解消するための受け皿が必要ではないか。

【議 長】偏りが出てしまうのは仕方ない気もするが、せっかく登録いただいた方が嫌にならないような支援が必要だろう。

【事務局】市民人材バンク制度については、今までには府内での利用促進に向けた連携が図れていなかった部分もあり、強化を図るため、P 4 3 (2) 学習成果の活用機会の創出のところに、新規の取組として記載している。先ほどの話とも重複するが、市民人材バンク推進員の会でも未活用者の今後の活用については大きな課題であり、登録者が具体的にどんなことができるのかを周知するためのモデル事業の実施や、図書館の展示スペースでその人の活動がわかる展示を行うなど、少しずつ活動を増やしている。事務局の生涯学習課が登録者の力量を把握していないと、相談があった時に紹介できない可能性もあるため、まずはそのような取組を行っている。今後もより力を入れて取り組むために拡充として記載している。

【委 員】市民人材バンクに登録している方は、市民表彰等の対象になるのか。それを目的で活動はしていないと思うが、登録している方が受賞されたとなると、励みにもつながるのではないか。市としては登録いただけでもうれしい気持ちがあると思うので、活用の機会がなくてもその気持ちだけでも市として伝えられる場面があってもいいのではないか。

【議 長】市民人材バンクが注目されるきっかけもなり、励みにもつながるだろう。

【事務局】P R活動にもつながる市民人材バンク制度の充実の取組の1つとして、

調査研究させていただきたい。

【議長】 続いて、P44の基本目標③(3)市民間交流の促進についての意見を伺う。継続施策も多いが、おもしろい取組が多いと感じる。特に⑤共通の趣味を持った方々の交流機会の充実は、今までになかった取組が記載されている。

【事務局】 この⑤については、若い世代を含めた今まで公民館や交流センターに馴染みがなかった方たちを地域に引っ張ってきたいと考え記載している箇所である。表現が難しく、まだ書き方を検討している最中でもある。

【議長】 とてもおもしろい取組だと思う。

【事務局】 市民間交流の促進については、継続施策が多い理由として、市として元々力を入れている部分もある。ただ、現状のままだと新しい人が増えないため、拡充と新規を追加した。

【議長】 継続しつつ、新しい取組も増やすということか。

【事務局】 KSFについて、「新たな事業・イベント」と設定しており、新しい取組を意識するためこのような形にしている。

【委員】 5年間で累計6回という認識で良いか。

【事務局】 おっしゃる通りである。

【議長】 これは一度実施した取組を2回実施する場合はカウントされないので。

【事務局】 新たな事業ではないためカウントしない。事業・イベントも規模によってハードルの高さが変わるが、⑤で挙げられている取組も新たな交流機会に該当する。どこまで取り組むかは、各施設と確認していきたい。大きなイベントとなると、生涯学習施設だけでは難しく、地域の方と協力して実施することになる。現在も新たな人材を公民館に来てもらうための取組に力を入れるよう指示があり、すでに各施設で取り組み始めている。

【議長】 大きなイベントを年に1度やるよりも、⑤で挙げられているような小規模な取組が市内に広がり、継続して取り組めるのが良いのではないか。また、市がすべて実施することが難しいと思うので、担い手を上手く作る必要があるだろう。

【事務局】 規模が大きい事業だと継続して取り組むことが難しい。例えばeスポーツだと、実際にやってみるゲームの種類や開催場所を変えるだけで、参加する層が変わることも考えられる。連続講座ではないが、人のつながりを作っていくと考えている。

【議長】 開催場所が変わるだけで、別の施設に行くきっかけにもなるだろう。

【委員】 これは、前期の会議で話題になった企てやすい取組に関わってくるのではないか。市の事業として取り組む建付けだと思うが、自分の知り合いにはイベントを企画したがっている人もおり、そのような人たちと上手く連携して取り組むのも一つではないか。自分はこの項目については、何かやりたがっている人を募集して、市がバックアップするものだと勝手に読み込んでいた。ここにはそれを企てやすくするための取組などの記述が書いてあるとよいのではないか。例えば、場所を無料で貸し出すことや、費用のサポートなど表現は難しいが、市としてバックアップできればやってくれる人は出てくるのではないか。

【議長】理想としては市が主催するだけより、やってくれる人にやってもらう方が理想だろう。

【委員】今の意見だと、P40の(3)新たな人材の発掘の⑤次世代を育てる事業の実施に近いのではないか。ここでは、次世代の指導者にフォーカスされているが、今みたいなコーディネーターのような実施主体になれる人を育していくことも含まれているのではないか。指導者とすると何かに秀でた人だけという印象をもたらしてしまうが、そうではない感じている。

【事務局】次世代を育てる事業については、現在すでに取り組んでいるものを想定して記載しているため、このような書き方をしている。新しい事業の担い手を発掘することも大きな目的の一つであるため、書き方についても一度持ち帰り検討したい。

【議長】何かやってみる人を作るのが目的であるということだろう。そのような人は1回事業に取り組むと、その後もどんどん取り組んでもらえるのではないか。

【委員】⑤共通の趣味を持った方々の交流機会の充実では、eスポーツなど新規の取組が書かれているが、他の施設で共通の趣味をもって活動しているサークル同士の交流もここに含まれるのか。現在は、その施設や地域だけでの交流だと思うが、別の施設で活動しているサークル同士が交流する機会を設けられると、既存のものをさらに発展させた取組になるのではないか。そのようなものも含まれているのであれば、加えられると印象が変わるのでないか。

【議長】地域を横断してテーマで集まる取組は現在行われていない。その地域のみの交流になってしまっているので、実際できたらおもしろい取組になるだろう。

【事務局】今いただいた意見も、計画推進するにあたっての具体的な取組案の1つとして、府内連携会議等に意見として出して、具体的に検討・研究していきたい。現状は地域ごとの交流に止まってしまっているが、その枠を超えた交流も市民間交流の促進の1つになるため、全庁的な話に持つていけたらと考える。

【委員】例になるが、地区体育祭は現在も各地域で行われているので、各地域で優勝したチーム交流の大会を設けることや、各地域の特色を生かしたまちおこしのコンテストを実施することも一体感や多世代の交流機会の促進にもつながるのではないか。eスポーツ体験交流会は若者をターゲットにしている印象があり、上の世代には難しいのではないかと思ってしまう。今あるものを合同にしていくのも良いのではないか。

【事務局】例えば施設対抗卓球大会や、ダンス発表会などということか。

【委員】その通り。他にも、プレゼン力を高めるために子どもたちに「富士見市の良いところコンテスト」をネット上で開催することも大きな予算をかけずに実施できて良いのではないか。

【議長】各施設で予選をやってみるもの盛り上がるのではないか。

【委員】図書館でもビブリオバトルを開催しているが、各施設で完結してしまっており、市全体で盛り上げた方が良い。

【委 員】鶴瀬公民館で行われているeスポーツの事業に参加しているが、最初は20名近くいたものの、開始から半年近くたった現在は10名程度しか参加していない。水谷東公民館は1年以上活動しているが、見学に行つたときは3名しか参加していなかった。健康増進センターでの参加者も、後期高齢者がほとんどであった。鶴瀬公民館の会場も特に若い世代が減ってきてていると感じている。参加者同士で話した時の事業の感想は「結局こういうことか」と言うものであり、既存の運営体制等にも関わっているのではないか。⑤については、抜けている中間層が参加するきっかけにつながるとしても良い取組になるのではないか。またP34の相談体制の充実に書かれている「助言や支援」の鍵にもなるのではないか。会を運営している人へのサポートを市が行う必要があり、参加人数の減少は行政からの支援が途切れてしまっていることも影響していると感じる。ここでの取組が世代間の交流の重要なものになってくるので、行政のサポートは必要である。

【事務局】現在eスポーツ事業は介護予防の一環として健康増進センターが行っている事業であるため、介護予防拠点施設の機器が設置されている。本計画には、介護予防以外の目的でもeスポーツの機器を活用して良いか健康増進センターに確認した上で、体験交流会という形で記載している。eスポーツを活用した世代を超えた交流は今年度鶴瀬公民館で実施しており、その時体験したゲームは子どもたちがやったことのないゲームソフトだったこともあり、高齢者と子どもがとても良い試合になって盛り上がったと聞いている。そのような取組を他の施設でも広げていきたいという考えがある。

【議 長】新たな人に来てもらうことも大切だが、来た人をがっかりさせないことも大事である。1回来てがっかりしてしまうともう来てももらえない。市主催事業だけでなく、会の運営側への運営の仕方の講座を行う等の取組も必要ではないか。

【委 員】P4の国・県の動向に、社会人の学び直しのリカレント教育・リスキリング教育についての記載をどこかに入れていきたい。

【事務局】リカレント教育・リスキリングについての記載は、記載する方向で検討を行っていたが、市の計画に落とし込んだ時に実際の取組に繋がらず、産業経済の仕組み要素の強い内容であるため本計画の取組内容に反映にくく、もっと適切な箇所があるのではないかという意見が府内からあった。教育振興基本計画（国）に「生涯学習の推進に当たっては」という部分があり、参考になる記述であったため、今回はそちらを記載することとした。

【委 員】リカレント教育も公民館事業でそのような取組が行えるのが一番良いとは思う。動向として抜かしていいのかという思いはある。

【議 長】市民大学などもリカレントと言える気もするが、一般のリカレントのイメージとは乖離する可能性はあるだろう。

【議 長】他に意見がなければ、これで終了とする。今回の意見を踏まえて、基本計画そのものに反映させるだけでなく、その後の計画の推進の際に取り組んでいく内容もあるため、結果は3月の会議で報告いただきたい。

3 その他

- ・各会議への参加報告

【委 員】入間地区社会教育協議会について、2月6日（金）に生涯学習フォーラムというイベントが開催され、会場がコピスみよしである。次回の会議の際に内容をお知らせする。ぜひご参加いただきたい。

【委 員】生涯学習推進市民懇談会が10月31日に開催され、今会議と同様に第4次富士見市生涯学習推進基本計画について話し合いを行った。

【事務局】生涯学習推進市民懇談会については、前回の会議すでに1回意見を伺っていたため、今回はその意見を踏まえた上での修正報告を行い、それを踏まえての意見や質問を伺ったものである。